



2027年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年7月8日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社吉野家ホールディングス

コード番号 9861

URL <https://www.yoshinoya-holdings.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 成瀬 哲也

問合せ先責任者 (役職名) グループ財務経理本部長 (氏名) 石原 浩晃 TEL 03-5651-8800

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2027年2月期第1四半期の連結業績(2026年3月1日～2026年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年2月期第1四半期	58,771	12.5	2,544	140.8	2,793	125.0	1,814	144.2
2026年2月期第1四半期	52,218	9.8	1,056	20.0	1,241	0.3	742	9.0

(注) 包括利益 2027年2月期第1四半期 2,122百万円(—%) 2026年2月期第1四半期 128百万円(△90.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年2月期第1四半期	28.03	—
2026年2月期第1四半期	11.48	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年2月期第1四半期	131,829	70,124	52.6
2026年2月期	124,824	68,712	54.5

(参考) 自己資本 2027年2月期第1四半期 69,405百万円 2026年2月期 67,992百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年2月期	—	11.00	—	11.00	22.00
2027年2月期	—	—	—	—	—
2027年2月期(予想)	—	11.00	—	11.00	22.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2027年2月期の連結業績予想(2026年3月1日～2027年2月28日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	119,000	7.7	4,600	3.6	4,800	0.0	2,800	5.9	43.26
通期	242,000	7.2	8,500	5.1	8,800	0.0	4,900	5.0	75.71

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有

新規 一社 (社名) 、除外 6社 (社名) 株式会社吉野家他5社

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2027年2月期1Q	65,129,558株	2026年2月期	65,129,558株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2027年2月期1Q	403,033株	2026年2月期	402,893株
------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2027年2月期1Q	64,726,590株	2026年2月期1Q	64,710,450株
------------	-------------	------------	-------------

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料P. 3「1. 経営成績等の概況(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	P. 2
(1) 当四半期の経営成績の概況	P. 2
(2) 当四半期の財政状態の概況	P. 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 4
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 8
(継続企業の前提に関する注記)	P. 8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 8
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	P. 8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	P. 8
(セグメント情報等の注記)	P. 9

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間における国内経済は、賃上げによる所得環境の改善が期待される一方、地政学リスクの長期化、米国を中心とする通商政策による為替相場の変動、少子化・高齢化に起因した労働力不足などにより依然として不透明な状況が続いています。こうした状況は当業界にも影響を及ぼし、消費マインドの低下や、原材料費・人件費の上昇、エネルギーコスト上昇に伴う光熱費および物流費の上昇、建築資材や包材の調達懸念など、取り巻く事業環境は依然として厳しい局面にあります。

このような状況の中、当社グループは中期経営計画「変身と成長」の実現に向け、「既存事業の変革（変身）と新たなドライバーの成長」を最重要課題と位置付けています。前年度に新設したグループマーケティング本部が当期より本格的に機能し、吉野家ブランドの独自価値を活かした客数向上による持続的な成長を推進しています。また、3月に全国の国内吉野家事業会社6社を統合したことで、トップマネジメントの意思決定を一元化し、迅速かつ強力な執行体制を構築しました。組織改編により、本社機能部門と事業会社が一体となり、経営資源の最適活用を図ることでグループ全体の経営効率を一層高め、収益力の強化を目指しています。ラーメン事業では、グループリソースを活用し、スクラップ&ビルドの取組みにおいて、閉鎖対象店舗のラーメン事業への転換や海外への出店を実施するほか、新たなビジネスモデルの開拓としてプロデュース事業にも挑戦し、グループのノウハウを結集して開業希望者を支援していく体制を構築しています。製造・物流機能においては、サプライチェーンの最適化と製造機能の拡充に向け、宝産業の国内の拠点を現状の2拠点から5拠点到拡大しました。これらの施策により全社既存店売上高は、前年同期比9.8%増となりました。店舗出店については、国内15店舗および海外30店舗を出店した結果、当社グループの店舗数は2,890店舗となりました。

以上の結果により、売上高は587億71百万円（前年同期比12.5%増）、営業利益は25億44百万円（前年同期比140.8%増）、経常利益は27億93百万円（前年同期比125.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は18億14百万円（前年同期比144.2%増）となりました。

当第1四半期連結累計期間におけるセグメント概況につきましては、次のとおりです。

[吉野家]

吉野家セグメントにおける店舗数は10店舗を出店、13店舗を閉店した結果、1,287店舗となりました。転換を進めている新サービスモデルの店舗数は10店舗増加し600店舗となりました。商品施策としては、原点である牛丼にフォーカスし、その価値をさらに高めるメニューの導入により客数向上に繋がりました。「肉味噌ねぎ牛丼」「魯肉牛丼」など牛丼の新たな楽しみ方を提案するトッピングに加え、牛丼の新セットとして販売した「牛丼・油そばセット」は販売開始から約1ヶ月で150万食を突破し、お客様から支持をいただきました。また、「牛鉄板焼肉定食」「焦がしねぎ焼き鳥丼」「絶品牛重」「牛ほっけ定食」などの商品も販売しました。販売施策としては、新アンバサダーを起用し、「元気を、いただきますっ。」をコミュニケーションコピーとしたTVCMを展開し、合わせて「牛丼弁当2丁800円キャンペーン」や「トッピング祭」などのキャンペーンを実施しました。これらの取組みにより、新規顧客の獲得と既存顧客のリピート率の向上に寄与しました。

以上の結果により、セグメント売上高は390億64百万円（前年同期比13.7%増）、セグメント利益は24億98百万円（前年同期比169.3%増）となりました。

[はなまる]

はなまるセグメントにおける店舗数は4店舗を出店、1店舗を閉店した結果、421店舗となりました。主な商品施策として、季節商品で「魚介豚骨つけ麺・ゆず牛肉つけ麺・辛魚豚骨つけ麺」を展開したほか、期間限定商品として総重量約1kgの「爆担々」を販売しました。また、前年度まで季節商品として販売していた冷やし担々メニューである「温玉ごま担々・白ごま担々・豚しゃぶごま担々」は、4月より春夏の通常メニューとして販売しました。販売施策としては、春の「天ぷらおでん定期券」や「初夏のクーポン祭」などのキャンペーンを実施しました。和麺事業の展開を推進するため、新たな麺カテゴリーであるきしめん業態を出店しました。加えて、狭小店舗については運用モデルを確立するため、来店動機の創出とリピート率の向上を図りました。

以上の結果により、セグメント売上高は88億34百万円（前年同期比10.4%増）、セグメント利益は8億61百万円（前年同期比19.8%増）となりました。

[海外]

海外セグメントにおける店舗数は30店舗を出店、24店舗を閉店した結果、1,041店舗となりました。米国では、アプリを用いた販売施策の展開により、前年度からの回復基調が継続しています。また、カミッサリーが本格稼働し、品質のさらなる安定化に繋がっています。中国では、引き続き会員システムを活用した販売促進策を展開するとともに、新商品導入サイクルの短縮やデリバリープラットフォームの活用を進め、収益確保に取り組みました。

以上の結果により、セグメント売上高は77億97百万円（前年同期比13.7%増）、セグメント利益は5億24百万円（前年同期比26.3%増）となりました。なお、海外は暦年決算のため1月から3月の実績を取り込んでいます。

(2) 当四半期の財政状態の概況

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ70億4百万円増加し、1,318億29百万円となりました。これは主として、現金及び預金の増加32億94百万円、受取手形及び売掛金の増加13億69百万円、建物及び構築物（純額）の増加8億92百万円によるものです。

負債総額は前連結会計年度末に比べ55億92百万円増加し、617億4百万円となりました。これは主として、短期借入金の増加30億円、支払手形及び買掛金の増加8億35百万円、賞与引当金の増加6億7百万円によるものです。

純資産は前連結会計年度末に比べ14億12百万円増加し701億24百万円となり、自己資本比率は52.6%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2027年2月期の連結業績予想（2026年3月1日～2027年2月28日）は、既に公表しておりますものから修正は行っていません。なお、当該業績予想は、当社グループが現時点までに入手可能な情報から判断して、合理的であるとした一定の条件に基づいたものです。実際の業績は様々な要因により異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	21,638	24,932
受取手形及び売掛金	6,803	8,173
商品及び製品	4,614	4,669
仕掛品	66	100
原材料及び貯蔵品	4,186	4,754
その他	4,781	5,628
貸倒引当金	△219	△214
流動資産合計	41,871	48,044
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	33,178	34,071
使用権資産（純額）	8,778	8,657
その他（純額）	16,891	16,131
有形固定資産合計	58,849	58,859
無形固定資産		
のれん	1,949	1,926
その他	1,822	2,008
無形固定資産合計	3,771	3,934
投資その他の資産		
投資有価証券	2,914	3,014
差入保証金	11,561	11,684
繰延税金資産	2,370	2,779
その他	3,830	3,718
貸倒引当金	△344	△206
投資その他の資産合計	20,331	20,990
固定資産合計	82,953	83,784
資産合計	124,824	131,829

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年5月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,331	7,166
短期借入金	7,050	10,050
1年内返済予定の長期借入金	3,313	3,315
リース債務	2,623	2,635
未払法人税等	1,813	1,650
賞与引当金	1,236	1,844
役員賞与引当金	4	-
株主優待引当金	309	465
資産除去債務	92	68
その他	13,204	14,552
流動負債合計	35,979	41,749
固定負債		
長期借入金	6,790	6,734
リース債務	9,042	8,878
退職給付に係る負債	-	5
資産除去債務	3,352	3,357
関係会社事業損失引当金	70	69
その他	876	910
固定負債合計	20,132	19,955
負債合計	56,112	61,704
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,265	10,265
資本剰余金	11,419	11,419
利益剰余金	46,444	47,548
自己株式	△499	△500
株主資本合計	67,628	68,733
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	28	27
為替換算調整勘定	375	685
退職給付に係る調整累計額	△40	△40
その他の包括利益累計額合計	363	671
非支配株主持分	720	719
純資産合計	68,712	70,124
負債純資産合計	124,824	131,829

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年3月1日 至 2025年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年3月1日 至 2026年5月31日)
売上高	52,218	58,771
売上原価	19,485	22,076
売上総利益	32,732	36,694
販売費及び一般管理費	31,675	34,149
営業利益	1,056	2,544
営業外収益		
受取利息	28	15
受取配当金	0	0
賃貸収入	84	88
持分法による投資利益	85	97
為替差益	14	85
雑収入	169	136
営業外収益合計	382	423
営業外費用		
支払利息	96	100
賃貸費用	56	39
雑損失	43	34
営業外費用合計	197	174
経常利益	1,241	2,793
特別利益		
固定資産売却益	25	194
受取補償金	59	367
関係会社出資金売却益	8	-
特別利益合計	93	561
特別損失		
固定資産売却損	0	-
固定資産除却損	17	43
減損損失	35	292
契約解約損	6	6
貸倒引当金繰入額	-	8
関係会社事業損失引当金繰入額	2	-
特別損失合計	61	350
税金等調整前四半期純利益	1,274	3,004
法人税、住民税及び事業税	534	1,581
法人税等調整額	△12	△382
法人税等合計	521	1,198
四半期純利益	752	1,805
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	9	△8
親会社株主に帰属する四半期純利益	742	1,814

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年3月1日 至 2025年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年3月1日 至 2026年5月31日)
四半期純利益	752	1,805
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	△1
為替換算調整勘定	△529	307
退職給付に係る調整額	2	0
持分法適用会社に対する持分相当額	△97	10
その他の包括利益合計	△623	316
四半期包括利益	128	2,122
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	129	2,123
非支配株主に係る四半期包括利益	△0	△0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結範囲の重要な変更)

連結子会社であった株式会社吉野家、株式会社北日本吉野家、株式会社中日本吉野家、株式会社関西吉野家、株式会社西日本吉野家、株式会社沖縄吉野家は、吸収合併により連結の範囲から除外しています。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりです。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年3月1日 至 2025年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年3月1日 至 2026年5月31日)
減価償却費	1,789百万円	1,883百万円
のれんの償却額	39 "	40 "

(セグメント情報等の注記)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2025年3月1日 至 2025年5月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	吉野家	はなまる	海外	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	34,084	7,954	6,858	48,897	3,320	52,218	—	52,218
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	273	46	—	319	366	686	△686	—
計	34,357	8,001	6,858	49,217	3,686	52,904	△686	52,218
セグメント利益	927	718	415	2,061	238	2,299	△1,242	1,056

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社16社を含んでいます。

2. セグメント利益の調整額△1,242百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,277百万円、セグメント間取引消去63百万円及びのれんの償却額△29百万円が含まれています。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2026年3月1日 至 2026年5月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	吉野家	はなまる	海外	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	38,779	8,782	7,797	55,359	3,411	58,771	—	58,771
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	285	51	—	336	372	709	△709	—
計	39,064	8,834	7,797	55,696	3,784	59,480	△709	58,771
セグメント利益	2,498	861	524	3,883	142	4,025	△1,480	2,544

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社20社を含んでいます。

2. セグメント利益の調整額△1,480百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,513百万円、セグメント間取引消去61百万円及びのれんの償却額△29百万円が含まれています。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。